

### 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0970200663		
法人名	社会福祉法人 美明会		
事業所名	特別養護老人ホーム義明苑 グループホーム くぼた		
所在地	栃木県足利市久保田町1220番地1		
自己評価作成日	平成26年9月10日	評価結果市町村受理日	平成26年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)
訪問調査日	平成26年10月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「ゆったり生きる、うっとり味わう」という事業理念を、朝礼時に職員で唱和し、日々の支援に活かしている。周りが田園地帯でもあることから、静かな環境で落ち着いた雰囲気なか、利用者一人ひとりのペースを大切に、利用者・職員ともに明るく笑顔にあふれている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

運営推進会議では利用者と家族全員に声をかけて参加ができる体制となっており、自由に発言が出来る機会や地域の方との交流の場にもなっている。そこで話し合われた改善が必要な事については、1年以内に対応をしている。入浴では週3回以上の利用も可能となっている。ホームでの入浴が難しい利用者の方は隣接する法人内デイサービスの機械浴槽を使用して、無理なく安全に入れる体制となっている。余暇支援も含めて法人が有する機能を活用しており、利用者が楽しめる機会を多くしたり、交流が広げられる取り組みがされている。職員は日々のケアの中で各自の役割を自主的に見出し、意識しながら行動をしている。誘導などの声掛けも他の利用者に聞こえないよう近くで行い、プライバシーへの配慮に加え、他の利用者の行動も邪魔をしない取り組みが自然と行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念「ゆったり生きる、うっとり味わう」を掲げている。朝礼時職員で唱和し、日常の支援に役立てている。	理念は法人全体で勉強会を行い、それを基に職員間で作成された。1日を通して楽しく食事が出来るよう具体的に周知しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田園地帯で近所に民家はない。また、地域住民も高齢化しており、法人のクリーン活動、納涼祭、サロン会との交流により地域とのつながりが感じられるが日常的とはいえない。	法人全体として自治会に加入をしている。年2回の自治会大掃除、学校の文化祭、運動会にも参加をしている。自治会の文化祭には、生け花を展示して参加もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	足利市で行われている「認知症サポーターの会」の施設見学で、認知症高齢者の支援について説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見をもとに話し合いを行い対処している。	市担当者、包括支援センター職員、民生委員を基本として、利用者や家族の全員に案内をして誰もが参加できる体制となっている。テーマにより関係機関の方を招く事もある。今年度はターミナルケアや水分補給など学習機会も取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡・報告・相談をし、情報を得ることによってサービスの向上に努めている。運営推進会議にも出席してもらい、ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	ホームとしても必要な時には連絡をしたり連携を図っている。法人全体としても市との協力関係が築けるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成している。また、随時話し合いをもち、ケアに取り組んでいる。	日々のケアの中で気になったことはその場で説明をしながら職員全員が理解を深められるようにしている。法人全体の勉強会でも取り上げられており、ことば遣いへの配慮も常に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止対応マニュアルを作成している。法人内での研修会に参加し、職員全員で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、理解に努めている。現在、2名の利用者が成年後見制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書等を用いて説明している。改定時は、書面をもって説明し、解約時は十分な説明・話し合いのもと、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族と話しをする機会を設けている。また、運営推進会議での意見も反映させることができるよう努力している。	火災のニュースがあった時には家族との話し合いが行われホームはガスからIH式に改善をした。家族は月1回は面会する機会を設けている為、積極的に意見を聞くようにしたり、電話でも聞きながら日々のケアでも改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・連絡ノート等で意見・提案・要望をだしてもらい反映させている。また、面談・自己申告書によっても意見がだせる機会がある。	連絡ノートは職員が自由に書けるようになっておりケアの改善はその都度行われている。職員会議は全員参加を基本としており参加出来ない職員には申し送りをしている。法人全体として職員個人の意見を伝えられる機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、自己申告書にて自己評価を行い、代表者と面談する。面談することによって代表者は、各自の向上心・理解に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修・勉強会への参加、資格取得の機会がある。また、法人内での研修会の広報の掲示がある。法人外での研修についても案内がいつでも見られるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会等の活動に参加し交流する機会を持っている。地域との同業者とも定期的に交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めてご本人から話を聞き、受けとめるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から話を聞き、受けとめるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とする支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームを家と考え、家族として接するよう心掛けている。また、職員は利用者と喜怒哀楽を共にし感謝の気持ちを忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の変化時はご家族に連絡・報告し、一緒に考えていくようにしている。面会・行事等ご家族との時間を大切に、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの物を置くことで安心感をもてるようにしている。医療機関等いきつけをそのまま利用する利用者もいる。	近所の方の面会もあり、自由に来てもらえるよう声をかけている。家族との関わりも大切にしており、家族からの話を聞きながら良好な関係が継続できるよう働きかけている。馴染みの場所へ行く際は家族に協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見守り、喧嘩時は職員が仲裁に入る。また、孤立している方には寄り添い、支えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談に応じ、適切な機関を紹介する等支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活リズムや習慣を変えず、その人らしい生活を送れるよう心掛けている。大まかな日課はあるが、とらわれない。	起床や食事時間もその日の利用者の体調に合わせて柔軟に対応をしている。利用者の思いを把握した場合には連絡ノートに記入をして職員が周知できる仕組みとなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・家族・ケアマネージャー等から情報を集め、これまでの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活を記録し、全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員と話し合い、介護計画を作成している。	医療機関からの助言や法人に居る看護師への相談も行っている。変更がある場合には家族へ相談をしながら職員全員で話し合いをして介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に時間を追って記入している。また、毎日ケアプランの実施確認を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	敷地内に特養・ディサービス・包括・在宅介護支援センター等を併設しているため、状況・要望に応じた対応ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の支援を受け、地区の運動会、文化祭等に参加している。また、運営推進会議でも情報を収集し、支援に役立っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの主治医として定期的に診察しているが、馴染みのかかりつけ医の利用者もあり、家族とともに支援している。	家族が対応をする場合にはホームで手紙を書いたり、口頭で家族へ伝えながら医師に報告できるようにしている。状況に応じて職員が付き添いながら適切に治療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康管理をしており、利用者・職員は相談・アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と連絡を取りながら、病院関係者と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を作成しており、家族に説明している。状態変化がある場合は、その都度家族と話し合いの場を設け、全職員で方針を共有している。	3年前には看取りも行われている。家族には医師や看護師から段階に合わせて看取りへの説明が行われる体制となっている。重度化への対応としては職員2人体制の介助などケアの検討も行い、法人のデイサービスの浴槽を使用できるよう協力体制も整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成している。定期的ではないが、応急手当や初期対応の確認はしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は毎月行っている。年2回は、消防署立会いの訓練を行っており、自治会長との協力を得られている。	火災想定を中心として毎月訓練をしており、日中の訓練では自治会長も参加をしている。法人全体としての協力体制も整えられている。備蓄については法人全体で検討している段階である。	火災以外の想定も実施をしながら様々な状況に対応できるよう期待します。備蓄などもより良い検討が行われるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、「さん」付けで呼んでいる。トイレもカーテンからドアに変更されプライバシーに配慮している。	ことばの乱れについてはその都度、職員への説明をして改善している。各職員も気になった事を連絡ノートを活用してお互いに意識したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の困難な利用者については、寄り添い表情よりその人の思いの把握に努めている。最終決定は本人の意思に添うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内の日課はあるが、利用者の生活習慣・ペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒に服を選ぶなど季節ごと気候の変化に対応したその人らしい身だしなみに配慮している。月に一度ボランティアによる化粧を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立作りをし、下膳、野菜の皮むきなどできることをしている。	ホームで献立を作っており、食材を発注して配達してもらっている。季節に合わせた料理も作ったり、リクエストに合わせるよう配慮している。利用者にはテーブル拭きなど無理のない協力を得られるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取状況は常に把握しており、本人の体調に合わせて量や食事時間を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの習慣はついている。歯ブラシ・うがい用のコップも個人の物を使用し、洗浄・消毒に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄できるよう定期的に声かけ誘導を行なっている。排泄チェック表を作成し、排泄のパターンの把握に努めている。	トイレで行う事を基本としており、利用者の状態によっては職員2名で対応をしている。夜間でも極カトイレで行えるよう誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は多めに摂取できるよう勧めている。日常的に運動不足であり、体操・散歩等働きかけもしているが、高齢で下肢筋力の衰えもあり、予防とはいえない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合になってしまうこともあるが、できるかぎり本人の希望を取り入れ、無理強いないで入浴順番や曜日を変更する等工夫している。	午後を中心に週3回以上入れるような体制となっている。入浴剤を使用したり、ゆず湯など季節に合わせた事も取り入れている。利用者の状態に合わせて職員2名で対応したり、法人デイサービスの浴槽も使用できる体制が整えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操・散歩・外気浴を行い、夜間気持ちよく眠れるように努めている。また、個人のペースに合わせて休めるように声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については一人ひとりの理解は難しいが、内服薬は一覧はいつでも確認できるようになっている。服薬忘れ、誤薬のないよう色分けをしたり、内服時には名前を声に出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望に添うことは難しいが地域との交流やボランティアの受け入れを行い、施設内での楽しみや気分転換が図れるよう支援している。また、個人の能力に合わせて家事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望には添えていないが、外食・外出を計画して出掛けられるようにしている。	利用者の状態に合わせて散歩が難しい場合には庭での日光浴が出来るようにしている。法人事業所で行われるイベントにも積極的に参加をしてホーム以外で過ごせるよう工夫をしている。家族の協力を得ながら外出が出来るようにしている。	現状に合わせた工夫をしていますので、今後も様々な工夫をしながら継続できる事を期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した時に買いたい物がある場合は立て替える等希望に添うようにしているが、お金を所持している利用者はいない。また、近所に買い物のできるお店はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員室にある電話はいつでも使用することができる。暑中見舞いや年賀状を家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調や照明は利用者の希望を聞き調節している。季節に応じた展示物や花を飾る等工夫している。	日差しへの配慮として少しテーブルの位置を変えるなどをしてまぶしさへの対応もしている。加湿をして室温は利用者に聞きながら決めている。床暖房を設置して膝掛も活用しながら寒さ対策をしている。ホールは季節に合わせた飾りつけをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食堂など共同で使用できるスペースがある。独りになりたい時は、離れた席や居室に誘導している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や布団など使い慣れた物を使用している利用者もいるが少ない。居室には利用者の作品や写真を飾り、馴染みの空間にしている。	持ち込む物は自由となっており、布団や家具、仏壇などを持ち込む方が居る。照明も好みで設置する方も居る。飾りつけは職員全員で気かけ、利用者話し合いながら行き居心地よい環境を設定している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室は分かりやすい名前を書いている。物品などの配置についてもシンプルにし、利用者が使用する時迷わないようにしている。		